

B 日 程

〈出典一覧〉

国語	河野哲也	『道徳を問いなおすーリベラリズムと教育のゆくえ』一部改変	筑摩書房
国語	鈴木一雄 校注・訳者	新編日本古典文学全集『夜の寝覚』一部改変	小学館
国語	若松英輔	『AI時代のことば力 沈黙のすすめ』一部改変	中央公論
日本史		女房装束（佐竹本三十六歌仙絵 小野小町）	藤木玄三
日本史		見返り美人図	東京国立博物館蔵、ColBase (https://colbase.nich.go.jp/)
日本史		金貨成分比の推移（大蔵財務協会編『日本通貨変遷図鑑』より作成）	山川出版社
世界史		清明上河図	ユニフォトプレスインターナショナル
世界史		桃鳩図	ユニフォトプレスインターナショナル
世界史		サンスーシ宮殿内の中国風茶館	アマナイメーヅ

問 4
 ③ 評価は相対の世界の話です。本当の芸術は、絶対の世界にあります。とあるが、「絶対の世界」とはどのような世界か、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 37

- ア 他者の評価ではなく、自らが自らの作品の評価を行う世界
- イ 自らの作品について、だれからの賞賛も受けたくはないと思う世界
- ウ 万人に賞賛されるのではなく、高い芸術的評価を目指す世界
- エ 最初は強く批判されても、やがて価値がわかるものを作る世界
- オ 他者の評価を超越して、自らの心や魂が求めるものを作る世界

問 5
 ④ 世にただ一つのものをつくりたいの「に」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 38

- ア 買い物に行く
- イ 三時に待ち合わせる
- ウ 学校に忘れ物をした
- エ 家に着いたら連絡する
- オ 外国に思いをはせる

問 6
 ⑤ ゴッホとあるが、ゴッホに共感した人に武者小路実篤がいる。武者小路実篤の作品の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 39

- ア 城の崎にて
- イ お目出たき人
- ウ 風立ちぬ
- エ 夜明け前
- オ 歯車

問 7
 ⑥ 私たちが「傑作」と思うものを AI がつくりうる可能性はあるとあるが、なぜ AI が「傑作」をつくらることができるのか、その理由として、適切ではないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 40

- ア AI は蓄積したデータを分析して、万人が好むようなものを作ることが上手いから
- イ 情報を早く効率的に求める現代人の志向に合わせて、即時に良いものを作れるから
- ウ AI は、知識を収集する能力に秀でており、それを芸術の分野にも利用できるから
- エ 改良や改善を重ねることにより、人間より創造的な作品を作ることができるから
- オ どこかで見たような作品を人は素晴らしいと感じる傾向を利用することができるから

問 8
 ⑦ 他者とふれ合い、分かち合うとはどのようなことか、その説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 41

- ア 仮初の答えを出すのではなく、相手の経験を尊重し、その経験の中から答えを見つけ出すように導くこと
- イ 自分が完全かどうかを疑い、他者なくして自分は存在しえないと知り、他者の意見に耳を傾けること
- ウ 自らの心にある見えない何かを顕在化させるために、AI との間では成立しない沈黙を他者と分かちつこと
- エ 自分が本当にほしかった答えを相手から聞くことがあるように、直接、相手と対話して問題を解決すること
- オ 相手との間にある見えない何かを探り出し、相手の求める答えが何かを察知して提示すること

問 9
 空欄 X にはいる語として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 42

- ア 高度な
- イ 単純な
- ウ 真剣な
- エ 敬虔な
- オ 篤実な

問 10
 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 43、47

- ④ AI が答えてくれる言葉に付随するような知識の世界とは、明示的な言葉の世界のことである
- ④ 人間は他者なくして存在しえないが、その他者とはまなならないものであり、それゆえに苦悩することもあるのである
- ④ 沈黙は、相手の答えが出るまで待つ時間のことを指し、待つためには経験が必要である
- ④ AI が作る模造品といえる芸術は、本当の意味での芸術とは言えず、それを「傑作」と評価するようなことは批判すべきである
- ④ 沈黙には待つ意志が必要だが、自分の心や魂が求めるものに気づくまで待つという点では、芸術も同じである

一つの言葉においても経験は重要です。これはどの言葉にもあてはまりません。水なら水そのもの、花なら花そのものを経験することが大切です。A Iは言葉に付随する知識を教えてくれるかもしれませんが、言葉が指すことそのものを教えてくれるわけではない。それなのに、知識を先に与えられると、経験をしなくてもいいように錯覚してしまう。恋愛したこともないのに、恋愛哲学を語るようになる。死を考えたこともないのに、死について分かった気になる。潮の香りもかいだことのない子どもが、七つの海について、とうとうと語るようになってしまいかもしれません。それは怖いことだと思いませんか。

本来は世界をどう経験するのが重要なのに、世界をどう理解するのかのほうに重点が移ってしまっていると、常に一歩下がって世界を眺めていなければならない。

A Iが与える答えは経験から生まれたものではないし、同じ質問をすると同じ答えが返ってきます。同じ言葉で問う。しかし、その問いの背後にあるAさんとBさんが経験したものは本来違うはずなのに、同じものとして扱われてしまう。

これは情報を速く効率的に摂取することを求める社会の傾向からくるものだと思います。私たちが「情報弱者」になることを恐れているからこそ、今回の対話型A Iのような技術が發明され、社会がそれを受け入れたのではないのでしょうか。

—— A Iが生成した小説が文学賞に入選するなど芸術の分野でも活用が進んでいます。詩作もなる若松さんはどう受け取っていますか。

A Iが賞レースで評価されるものをつくるのは、当たり前なことだと思います。むしろ下手な人間よりA Iのほうが上手いでしょう。受賞作の傾向や審査員の好みは、ある程度データ化できるようなものだからです。

B 高い評価を得るためにつくられたものは芸術とは呼べません。もちろん私だって、ある時期までは自分の作品を他人から評価されたかった。ですが評価は相対の世界の話です。本当の芸術は、絶対の世界にあります。世にただ一つのものをつく

りたい。「他人より秀でたい」と思うだけなら、芸術との関係を手放しています。画家のゴッホの作品は生前にはほとんど売れなかった。彫刻家のロダンだって、最初は強く批判され、評価されなかったけれど、今日では一つの美の標準になっている。芸術とはその時代の評価軸を超えていくものだと思います。

C 私たちが「傑作」と思うものをA Iがつくりうる可能性はあると思います。しかしそれは過去の傑作の模造品にしかなりえないでしょう。私たちに、どこかで見えたことがあったり、改良を重ねたりしたものを素晴らしいと感じる傾向があり、そうした改良や改善はA Iのほうがずっと上手くできる。でもゴッホの仕事はまるで違う。誰にも似ていない。ゴッホは他人からの評価ではなく、自身が切実に求めたものに忠実に作品を生み出した。**C** 彼の作品は時代を経てからでないか「傑作」になれなかった。それが創造であり、芸術でしょう。

A Iは「人工知能」と言うとおり、改良や改善のように「頭」の仕事です。しかし、創造的なものを生むのは頭ではなく、「心」や、そのさらに奥深くの「魂」による仕事です。自身の心や魂が求めるものに気づくために、沈黙が必要になるのだと思います。

なぜA Iには心や魂がないのか。機械だからと言ってしまうは簡単ですが、根本的には、A Iにはままならない他者がいないからだだと思います。心や魂は、他者とふれ合い、分かち合いの中で生まれてきます。A Iはままならない他者から独立しているの、心は生まれません。他者がいなければ、悩むこともありません。人間が悩むのは、「私は間違っているのではないか?」「自分は不完全なのではないか?」という他者に開かれた、根本的な自分への疑いがあるからです。

人は自分が不完全だと思っているからこそ他者の話にも耳を傾けます。世の中にはたまに、自分が完全だと思っている人もいますけれども、そういう人はどこか悪かに見える。他者に対して開かれるということは、他者なくして自分は存在しえないと知ることです。

精神科医の木村敏さんが「人と人との間」という本を書いています。人と人との「間」にある見ええない何かを私たちは日々感じ

て生きていて、人間の心はそれなしでは成立しえないことを、改めて考え直してみるのはよいことだと思います。人間とA Iとは、この意味での間はつくりつらいのではないかと思います。そうすると、A Iと人間の間には本当の意味での対話も成り立ちえない。質問すれば答えてくれ、会話ができるかもしれないが、対話とはもっと**X** 営みです。お互いに沈黙を分かち合い、自分が考えていたはずのことを、相手の口から聞くことすらある。このように、明示的な言葉の世界を超えていくのが人間の対話です。

(若松英輔「A I時代のことば力 沈黙のすすめ」)

問1 空欄 **A**・**B**・**C** にはいる接続表現の組み合わせとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **34**

- ア 一方で——しかし——だからこそ
- イ 結局——反対に——おそらく
- ウ とはいえ——だが——つまり
- エ ところが——つまり——いずれにせよ
- オ なにしろ——とはいえ——したがって

問2 ^① そうして与えられた答えが物事を解決してくれるとは限りませんとあるが、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は **35**

- ア 明確な答えを与えられると、自らで問題を解決しようとしなくなるから
- イ 人間よりも明確な答えを与えてくれるがゆえに、個々の経験が軽んじられるから
- ウ 画一的で一方的な答えは、それ以上の経験の可能性を生むものではないから
- エ A Iは付随する知識は教えてくれるが、その言葉の本来の意味は教えてくれないから
- オ 個々の経験からその人自身が見つけたものが答えであり、それは個別のものだから

問3 ^② それは怖いことだと思えますとあるが、若松氏はどのようなことが怖いことだと述べているか、三十字以内で記しなさい。解答番号は **36**

問4 弁少将に契りてさぶらふ」とあるが、なぜこのような展開になったのか、その理由の説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 23

- ア 式部卿の宮の中将が自分では女にふさわしくないと考え、身をひいたから
- イ 女が式部卿の宮の中将の不誠実さに失望し、他の男を選んだから
- ウ 式部卿の宮の親が息子の秘密の恋に気がついて反対し、二人を別れさせたから
- エ 女の親が式部卿の宮の中将に結婚の意思がないと判断し、勝手に見切りを付けたから
- オ 女の親が年頃になった娘に恋人がいることを知らず、結婚相手を決めてしまったから

問5 軽々しと躊躇しながらも、中納言が垣間見を代行した理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 24

- ア 月明りで探していた恋人を見つけることができそうだったから
- イ 透垣のあたりに茂っている萩が見たかったから
- ウ 箏の琴を弾いている人物が気になったから
- エ 横たわり広がりしている松の木の陰で人に見られる心配がなかったから
- オ 池、遣水の流れ、庭の砂子などのすばらしい風情に誘われたから

問6 なつかしくなまめき の意味として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 25

- ア 親しみやすく優美で
- イ 風流で趣きがあり
- ウ あでやかで艶っぽく
- エ 素朴でういいういしく
- オ 古風で奥ゆかしく

問7 あさましく見おぼろきたまひぬ を主語を補って、現代語訳しなさい。解答番号は 26

問8 竹取の翁の家(そこ)とかぐや姫はありけれ とあるが、その内容の説明として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 27

- ア かぐや姫が竹取の翁の家に行ったのが一時的だったように、女も急に姿を消してしまうのではと不吉に思ったこと
- イ かぐや姫が竹取の翁によって発見されたように、女が竹のある家に住んでいるのを面白く感じたこと
- ウ かぐや姫が竹取の翁の家に引き取られていたように、美しい女は意外な場所にいるものだとということ
- エ かぐや姫が優しい竹取の翁の家に預けられたように、美しさは心清らかな人物によって育まれるということ
- オ かぐや姫が賤しい竹取の翁の家で養われたように、美しさは家柄の良し悪しに関わらないということ

問9 本文の内容と一致するものには○を、一致しないものには×を、それぞれマークしなさい。解答番号は 28 ～ 32

- 28 女たちは美しかったが、僧の所有地で遊興に耽る態度に中納言は最初は批判的だった
- 29 中納言が垣間見したのは、三十くらい的美女と色白で遠き通るような三の君の二人だった
- 30 中納言がいた邸と垣間見した邸の隔てには竹が乱雑に茂っているだけだった
- 31 中納言は、身の程を知らず良い暮らしをする女たちを見てあさましいとあきれいている
- 32 箏の琴を弾いていた女は類いまれな美しさで、他の女たちとは比べものにならないから

問10 「夜の寝覚」は、平安時代後期に成立した作品である。同時代に成立したと考えられている作品を次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 33

- ア 浜松中納言物語
- イ 宇治拾遺物語
- ウ 徒然草
- エ 太平記
- オ 伊勢物語

第三問 【選択問題】 現代文

次の文章は、生成 AI に関する若松英輔氏へのインタビュー記事(二〇二三年)の一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

——今年に入り ChatGPT など、文章を生成する対話型 AI に注目が集まっています。若松さんはこれまで言葉に関する著作を数多く発表しておられますが、AI が生成した言葉がふれる時代の言葉との向き合い方についてお話をうかがわせてください。

まず AI と人間の決定的な違いは「沈黙」にあると思っています。AI は黙っていることができません。ここで言う沈黙には意志が必要だからです。

たとえば、若い人から相談を受けているとき、「こうしたほうがいいのにな」という答えが私の中にあつたとしても、何も言わずに話を聞くだけのことがあります。若い人に、仮初の答えを与えることよりも、その人に寄り添い、その人自身が答えを見つけることの方が大切だからです。

会社でも同様でしょう。上司になったら時には黙っていることが必要です。上司とは的確な答えを与える人ではなく、部下自身が答えを見つけられるような場をつくる人だからです。

「A」は沈黙しませんし、場もつくりません。問いを投げかけるとすぐ答えてくれる。もしかしたら、人間よりも明確な答えを与えてくれるかもしれません。ですが、そうして与えられた答えが物事を解決してくれるとは限りません。AI はその人が自らの経験の中で答えを見つけろと焦って待っていてはくれないのです。

与えられる知識と、自分で得る経験とはまるで違います。仕事の現場で実際に失敗してみると、こんなに周囲に迷惑をかけてしまったんだと身に染みて分かる。これは「失敗」という言葉の意味だけを知っていることとは全く異なります。

問2 次の空欄 X にはいるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 17

17 対 X 車とすれ違う

ア 行 イ 向 ウ 抗 エ 交

問3 次の文の空欄 Y にはいるものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 18

18 「Y を争う」とは、どちらが正しいのか、まちがっているのかをはっきりさせることである

ア 主客 イ 左右 ウ 黑白 エ 有無

問4 次の慣用句と対照的な意味のものを、ア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 19

19 虹蜂取らず

ア 一挙両得 イ 海千山千 ウ 学杜盛衰 エ 二東三文

第二問 【選択問題】 古文

次の文章は『夜の寝覚』の一節で、中納言が病気の乳母を見舞った夜の場面である。これを読んで、あとの問いに答えなさい。なお、*印の付いた語句については、注を参照しなさい。

御乳母子の少納言行頼ときこゆる、*法性寺の僧都の領する所には、この六月より、今の但馬守時明の朝臣の女なむ、渡りて住みさらふなり。月明き夜は、かくそ遊ひさらふことときこゆれば、「それが女どもは、かかること好み。思はずのことや」とのたまへば、「かやうに出て居、ときどき遊が、見たまふるに、いづれも目やすく見たまふるなにも、源大納言の子の弁少將に契りてかじつきさらふ三にあたるは、すべてまどしく優げなる気色になむ。式部卿の宮の中侍、石山に参りて、ほかに見て、文などさぶらひけるを、女は返り事などして、それに心寄る気色にさぶらひけれど、かの中侍の、『お夜てときどき通はむ。親に知られて、あらはれてはあらじ』と、さぶらひければ、親もようながりて、*弁少將に契りてさらふなり」と申せば、笑ひたまひて、「さては、女は本意ならずと思ふらむ。心はせあるものなり。中将に心寄すらむ」とのたまひて、竹のもとに歩み寄りたまひて聞きたまへば、琴の声はいとよく掻き合はせられて、なかにも*琴のときどき掻きませたるは、いとすぐれて聞こゆ。こなたもかなたも竹のみしげり合ひて、隔てつききくも固めず、しどけなきに、行頼押しあけて、「同じくは、これより入らせたまへ」と申せば、「人や見つけむ。騒々」とはのたまへど、*筆の琴は、弾くらむ人ゆかしく心とどまりて、やをら入りたまへれど、こなたも竹多くしげりて、横たはれ広がりたる松の木の陰にて、人見つくべくもあらず、軒近き透垣のものとしげれる荻のもとに伝ひ寄りて見たまへば、池、溜水の流れ、庭の砂子などをかきしげなるに、簾巻き上げて、三十に今そ及ぶらむとおほゆるほどなる人、高欄のもとにて和琴を弾くあり。頭つき、*様体ほそやかに、しなしなく、きよらなるに、髪はいとつややかにゆるゆるとかかりて、目やすき人かな、と見ゆるに、向かひさまにて、*紅か二藍かのほどなめり、いと白く透きたる好ましげなる

人すそり下りて、長押を押しかりて、外さまをながめ出でて、*掻き鳴らしたる音、聞くよりも、うちもてなしたる有様、かたち、いと気色ほみ、なつかしくなまめき、こほれかかれる顔姿の絶え間のいと白くをかしげなるほどなど、まことしく優なるものかな、と見ゆるに、*筆の琴人は、長押の上につきし引き入りて、琴は弾きやみて、それに寄りかかりて、西にかたぶくまに曇りなき月をながめたる、の居たる人々ををかしと見るに、くらふれば、むら雲のなかり望月のさやかなる光を見つけたる心地するに、あさましく見おどろきたむひぬ。*これこそは、行頼がほめつる三の君なめれ、長押の端なるは姉どもなめり。これこそ、その際のすぐれたるならぬ。いかで目もあやにあらむ」とまもるに、「かたちは、やむごとなきにもよらぬわざかし。竹取の翁の家にこそかくや姫はありけれ」と見るにも、この程の様は、なほめづらかなり。

(夜の寝覚)

注
*少納言行頼……………中納言の家来
*法性寺の僧都の領する所……………法性寺の僧都は、但馬守時明の妻の兄。その所有地は、中納言の乳母の邸の隣であった。
*思はずのことや……………但馬守程度の娘たちが、と意外に思った。
*二……………第二女。
*ようながりて……………甲斐なく思つて。
*紅か二藍か……………衣の色合いのこと。紅は鮮明な赤色、二藍は赤みがかった青色。

問1 a の読みをひらがなで記しなさい。解答番号は 20

20 長押

問2 さぶらふ1) の説明として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 21

- ア 尊敬語で、僧都への敬意を表す
- イ 謙譲語で、但馬守の女への敬意を表す
- ウ 謙譲語で、行頼への敬意を表す
- エ 丁寧語で、中納言への敬意を表す
- オ 丁寧語で、読み手への敬意を表す

問3 遊び2) の意味として、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 22

- ア 漢詩の鑑賞
- イ 和歌の贈答
- ウ 琴の合奏
- エ 月夜の散策
- オ 男女の逢瀬

問7
 ⑤ 旧弊な道徳を語る人」とあるが、こうした人々にはどのような問題点があるか、もつとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 7

- ア 自分が信じる価値や善が全ての人々に通用すると思ひ込み、自分の価値や善を問はず、道徳教育を儒教的な価値観のもとに推進しようとするという問題点
- イ もはやかつての道徳的価値観が通用しないことに気づかず、自分の信じる道徳とは異なる道徳的価値観を持つ人物を徹底的に批判して排除するという問題点
- ウ 特定の価値や善を信じるあまり、自分が信じる価値を他人も信じていると思ひ込み、自分と異なる価値観を持つ人にも自分の信じる価値を強要するという問題点
- エ 特定の状況でしか通用しない価値や善を誰にでも通用すると勘違いし、自分の信じる価値や善と異なる場合は、それを排除する可能性があるという問題点
- オ 自分には適合する価値や善であっても、他の人には必ずしも適合しないことを理解できず、自分の視野が狭いことに気づかないという問題点

問8
 ⑥ 自分の価値や善を過剰に人に強要する態度は、多様な人びとの集まる価値の多元的な社会では、かえって道徳に反するものとなる。について、その理由を十五字以内で説明しなさい。解答番号は 8

問9
 これまでの道徳教育の問題点はどのような点か、本文の内容を踏まえて、適切ではないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 9

- ア 既存の社会秩序の根拠や有効性を示さず、その権威を理由に無条件で従わせる点
- イ 子どもが道徳そのものを考える機会がなく、子どもたちの自律性を軽視している点
- ウ 学習指導要領に具体的な教育内容がなく、体系的にまとまった指導ができない点
- エ 教員が考える理想を絶対的な価値観として、子どもたちに押し付けやすい点
- オ 個人の社会への貢献を推奨しつつ、社会から個人への貢献は考慮されていない点

問10
 本文の内容と一致するものには①を、一致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は 10、14

- ⑩ 従来の道徳教育は社会規範やルールを遵守する個人の育成を目指すものだったが、これは現代哲学・倫理学で築き上げられた正義や善の定義を踏まえておらず、現代の道徳教育において踏襲されるべきものではない
- ⑪ 道徳教育に対する拒絶感、儒教的価値観や、教員が自分の理想とする価値観を子どもに押し付けることによって生じるものであり、その結果、道徳を不要と考える人を生み出すおそれがある
- ⑫ かつての道徳教育は、あらかじめ特定の価値観や思想を一方的に教え込み、子どもたちの自己決定の余地を奪う過剰なものであり、その背景には儒教的価値観を肯定する教員や学習指導要領の存在が大きく影響している
- ⑬ 仮に道徳教育が唯一の正しい生き方を子どもたちに教えるべきものだとしても、それは人の生き方に優劣を付け、正しい生き方から外れる者を排除する教育であり、そのような道徳教育ならば、学校教育では存在しない方がよい
- ⑭ 筆者は、従来の道徳教育で重視された社会秩序に従うことを是とする価値観を否定し、個人が内包する価値観を追求することを是とする価値観を基盤とした善の多様性を追求する教育こそ、新たな道徳教育であると考えている

(二) 次の問いに答えなさい。

問1
 次の傍線部に相当する漢字を含むものを、それぞれア～エの中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は 15、16

- ⑮ オウネンの夢をかなえる
- ⑯ オウネンの夢をかなえる
- ア 芸能のオウ義
- イ オウ着を決め込む
- ウ オウ急処置を施す
- エ 人のオウ来が絶えない
- ⑰ 意志のソツウをはかる
- ア 村のカソ化が進む
- イ ソシヨクを奨励する
- ウ ヘイソの心がけが大切だ
- エ 適切なソチをとる

問1 ① 次のような疑問と印象とあるが、その説明として、適切ではないものを次の中から一つ選び、その記号をマークしなさい。解答番号は①

- ア 一般に理想とされる社会規範が羅列されるだけで、道徳教育として実用性に乏しい
- イ 選ばれた項目の選定基準や根拠が不明瞭で、しかも個人の尊厳が尊重されていない
- ウ 列挙された項目は理論的に練られておらず、新しい時代の価値観に対応していない
- エ 社会に貢献する個人が求められ、社会が個人の上位であることが自明視されている
- オ 各項目は現代的な内容も含むが、既存の社会秩序を是とする価値観に基づいている

問2 空欄 A・B にはいる接続表現の組み合わせとして、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は②

- ア 例えは――とすれば
- イ すなわち――おそらく
- ウ ついては――ならびに
- エ もしくは――すなわち
- オ 要するに――そのため

問3 ② 現代社会に求められる道徳的価値とあるが、その具体例を述べた箇所を十六字で抜き出し、記しなさい。解答番号は③

- ③ そのような人物とあるが、具体的にはどのような人物か、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は④
- ア 大人が設定した理想の子どもを演じる、どこか薄気味悪さを持った人物
- イ 自らの理想よりも社会の理想を追求し、人としての温かみを失わない人物
- ウ 誠実であり、社会規範を遵守し、社会のために役立つとしている人物
- エ 本来の自分をねじ曲げてでも、社会が理想とする人物像を体現する人物
- オ 柔和で社会貢献への情熱を持ちつつ、大人の説く理想を盲信しない人物

問5 ④ 従来の道徳観は、現代哲学・倫理学において重視されている「正義」と「善」の区別に関してまったく無頓着とあるが、なぜ「正義」と「善」が区別されることが必要なのか、その理由として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑤

- ア 平等性を重視する「正義」と個人の価値観を認める「善」は別のものであり、両者を区別しないことは、「正義」と「善」のいずれかを押し付けることになるから
- イ あらゆる人が共通して守るべき「正義」と他者から強制されるべきではない「善」は本質的に対立するものであり、道徳教育においては峻別されるべきだから
- ウ 現代の道徳教育において、本来は個人で追い求めるべき「善」が、共通に守られるべき「正義」と混同されることによって、価値観の強制が起きやすいため
- エ 誰もが守るべき「正義」は個人が追求する「善」よりも上位のものであり、「正義」への理解を深めた上で「善」を追求することが新しい道徳教育に繋がるから
- オ 今まで混同されていた「正義」と「善」を区別することで、従来の社会規範に無批判に従う個人ではなく、「正義」に従う個人を養成することが可能になるから

問6 空欄 X にあてはまる文として、もっとも適切なものを次の中から選び、その記号をマークしなさい。解答番号は⑥

- ア 責任の取れる範囲内で、自分の生き方を自分で選べる
- イ 他者との対話を通じて、物事の価値を決められる
- ウ 社会貢献を条件として、自分のやりたいようにできる
- エ 社会の理想とする価値観であれば、自分で選び取れる
- オ 自分が価値ありとするものを、自分で決定できる

第一問 【共通問題 現代文】

(一) 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

従来の「道徳」教育に関するイメージとはどのようなものであろうか。

日本の道徳教育の伝統的なモデルは、心理学と結びついた徳育であったといつてよい。それは、社会で認められている一定の価値を受け入れ、社会規範やルールを遵守する個人を作り出す教育であった。

そこで重視されている価値とは、たとえば、中学校の指導要領にあげられているような以下の項目である。すなわち、「礼儀」「感謝」「友情」「男女の平等」「個性の尊重」「自然への畏敬の念」「生命の尊厳」「人間の気高さ」「集団での役割と責任の自覚」「公德心と社会的連帯」「正義と公平」「差別の禁止」「勤労と奉仕の精神」「父母・祖父母への敬愛」「学級や学校の一員としての自覚」「地域社会の一員としての自覚」「日本人としての愛国心」「世界のなかの日本人としての自覚」「世界平和と人類の幸福への貢献」である。

しかし、筆者はこれらの項目を見たときには、次のような疑問と印象を抱く。まず、これらの項目が体系的ではなく列挙的であること、そして、これらの項目がどのような基準と根拠によって選ばれているかが不明なことである。つまり、あまり理論的に練られたものに見えないのである。

さらに注意すべきは、個人が社会に貢献すべきこと、個人が社会に奉仕すべきことが、繰り返し何度も強調されていることである。だがその一方で、個人に対する社会の側からの貢献、社会による個人の人權の擁護や自律性の尊重はアンバランスなまでに小さくなってしまっている。つまり、社会は、個人よりも上位の価値をもつ存在者と見なされている。そこには、人間のエゴイズムに対する臆病なまでの恐怖心が表現されており、個人の尊厳という近代社会の原理が軽視されているかのようだ。

さらに、これらの項目は、日本国憲法や国連の人權宣言などもそれほど対応しておらず、前記の徳目は、あまり現代性を感じさせない価値観に支配されているのである。

ひとつひとつの項目の批判は、いまは控えておこう。しかし、右の内容には、現代社会に求められる道徳的価値も一部含まれているもの、どこか旧弊な儒教的価値が入り混じってしまっているという印象はぬぐえない。

(ここで言う「儒教的価値」とは、思想としての儒教そのものであるよりは、人々が、社会の権威や現行の社会規範に従順であるような社会秩序を是とする価値観のことである。子どもに、その根拠や有効性を説明することなく、ルールに一方的に従うことを求めるのは、日本の学校ではよく見られる光景である。こうした学校の方針は、そうした権威主義的な価値観とよく一致しているのかもしれない。しかし、慣習と権威に従順である態度は、しばしば道徳性と衝突する。日本の一般社会において、「道徳教育」と言えば、こうした権威主義的で受動的な形で価値観を習得させることを意味する場が多い。それが、多くの人びとに道徳教育に対する拒絶感を持たせる原因となっている。

B、このような徳育においてイメージされている「道徳的な」人物とは、まとめて、社会のルールを守り、誠実で、人に対して思いやりのあり、社会に貢献しようとする意欲を持った人物であろう(この時点で、こうした人物を薄気味悪いと感じる人がいるだろう。絶対そうをつかない「模範少年」に私たちが異様さや薄ら寒さを感じるの、そうした子どもが大の支配下にあり、完全に自律性を失っているからである)。しかし、そのような人物の育成を目指した教育は、道徳教育としては、ある意味において、過剰であり、別の意味においては、不足なのである。

従来の道徳教育は、なぜ過剰であり、また不足なのだろうか。

前記の項目に表現されているような従来の道徳観や道徳教育は、現代においては過剰である。というのも、(中略)従来の道徳観は、現代哲学・倫理学において重視されている「正義」と「善」の区別に関してもたたく無頓着だからである。おそらく、従来の道徳観をいまだに推進しようとする人びとは、その区別を知らないのだから。

正義とは、等しいものを等しく扱うという意味での公平性や平等性を意味する。それは、自己と他者を同格の存在として等しく扱うことである。他方、善とは、ある人が価値を認めるものを指す(本書では、個々人にとっての人生の目的や価値としての「善」と、道徳的価値一般としての「道徳的善」を区別したい。正義は、前者の「善」からは区別されるが、後者の「道徳的善」の一部をなしている。現代のリベラルな哲学においては、正義は共通に守られるべきであるが、善は各人が自律的に追求すべきものであり、他者から強制されるべきものではないと考えられている。むしろ、自分の善を他者に強制することは、他者の自律性の侵害という悪になってしまうのである。

先の指導要領の項目、「個性の尊重」や「生命の尊厳」「人間の気高さ」のなかには、個人は、他者の危害とならない限り自分の自由を行ってよいという「自律性の原則」の理念が含まれている。

自律性の原則には、**X** 権限が含まれている。子どもであっても、発達段階に応じ、自律性が尊重されるべきことは変わらない。しかし、先の項目のなかには、「こう生きなさい」「これら礼儀だ」「目上にはこう接しなさい」「恋愛はこうあるべきだ」「自分の住んでいる地域を中心に社会貢献しなさい」といった形で、あるべき人間の姿といった生き方の理想型を示しがちである。これでは、個人で自律的に選べるべき価値を押し付けていることになり、個人の尊厳に反する。こうした教育によって、自律性は育たない。

指導要領はそれほど詳細な指示をしないが、学校で道徳教育がなされる場合には、その教育内容はもっと具体的なものになるであろう。そこに、ある種の価値観を持った教員が、「このように生きることが素晴らしいのだ」「こうした仕事観を持つことが理想だ」「恋愛はこうあるべきだ」「困る愛するべきだ」「これが良い結婚だ」といった自分の個人的な善を強制的に教育した場、先にあげた指導要領よりもさらに古臭く、独善的なものになる可能性もある。

道徳教育が、唯一のあるべき人生の姿を教えるものだとすれば、それは恐るべきものであり、そのような道徳教育などはない方がよい。なぜなら、ひとつの生きるべき仕方を学校教育で示すということは、人間の生き方に上下の階層をつけることであり、学

校や教師が信じる価値から外れるものは、排除されてしまうからだ。

旧弊な道徳を語る人は、しばしば、自分の信じる価値や善が、特定の狭い文脈の中でしか通用しないことが理解できていない。たとえ、それに準じて生きることが自分にとってフィットしていても、他の人にはそうではないことが理解できない。そのような視野の狭い人物は、子どもと自分の価値が異なった場合には、自己の信念を固く直そうとはせず、その異質性を取り除こうとするだろう。

道徳教育の分野で独善的な価値や善が語られるたびに、人びとは道徳への不信感を高め、若い人にとっては道徳などまったく不要なだと勘違いしてしまうかもしれない。自分の価値や善を過剰に人に強要する態度は、多様な人びとの集まる価値の多元的な社会では、かえって道徳に反するものとなる。善の多様性を認め、異質な人びとと共存することは、他者への寛容と他者の自律性の承認という現代社会におけるきわめて重大な道徳的価値の実現である。これまでの道徳教育には、こうした異質なものの受容と他者の自律性の尊重が欠けていたのである。

(河野哲也「道徳を問わないおす——リベラリズムと教育のゆくえ」)